

文化力と価値創造に関する特別委員会 議事次第

（令和7年6月26日（木）
午後1時30分～
於：第4委員会室）

1 開 会

2 所管事項の調査

「地域文化の保存・継承の取組について」

参考人：株式会社オマツリジャパン

取締役 菅原 健佑 氏

3 委員間討議

4 閉会中の継続審査及び調査

5 今後の委員会運営

○ 管外調査

日 程：令和7年8月25日（月）～27日（水）

6 そ の 他

7 閉 会

文化力と価値創造に関する特別委員会 出席要求理事者名簿
(令和7年6月府議会定例会)

【文化生活部】	
文化生活部副部長(文化振興担当) (文化政策室長兼務)	梅 原 和 久
文化生活部理事 (ACK・AFK担当)	大 石 正 子
文化芸術課長	松 村 明 日 香

【商工労働観光部】	
観光室企画参事	牧 哲 也

【教育委員会】	
文化財保護課長	石 崎 善 久

(計 5 名)

令和7年6月定例会
文化力と価値創造に関する特別委員会

地域文化の保存・継承の取組について

令和7年6月26日
文化政策室

地域文化の保存・継承の取組について

- 1 地域文化を保存・活用する取組
- 2 文化を次世代に継承する取組

～ 1 : 地域文化を保存・活用する取組①～

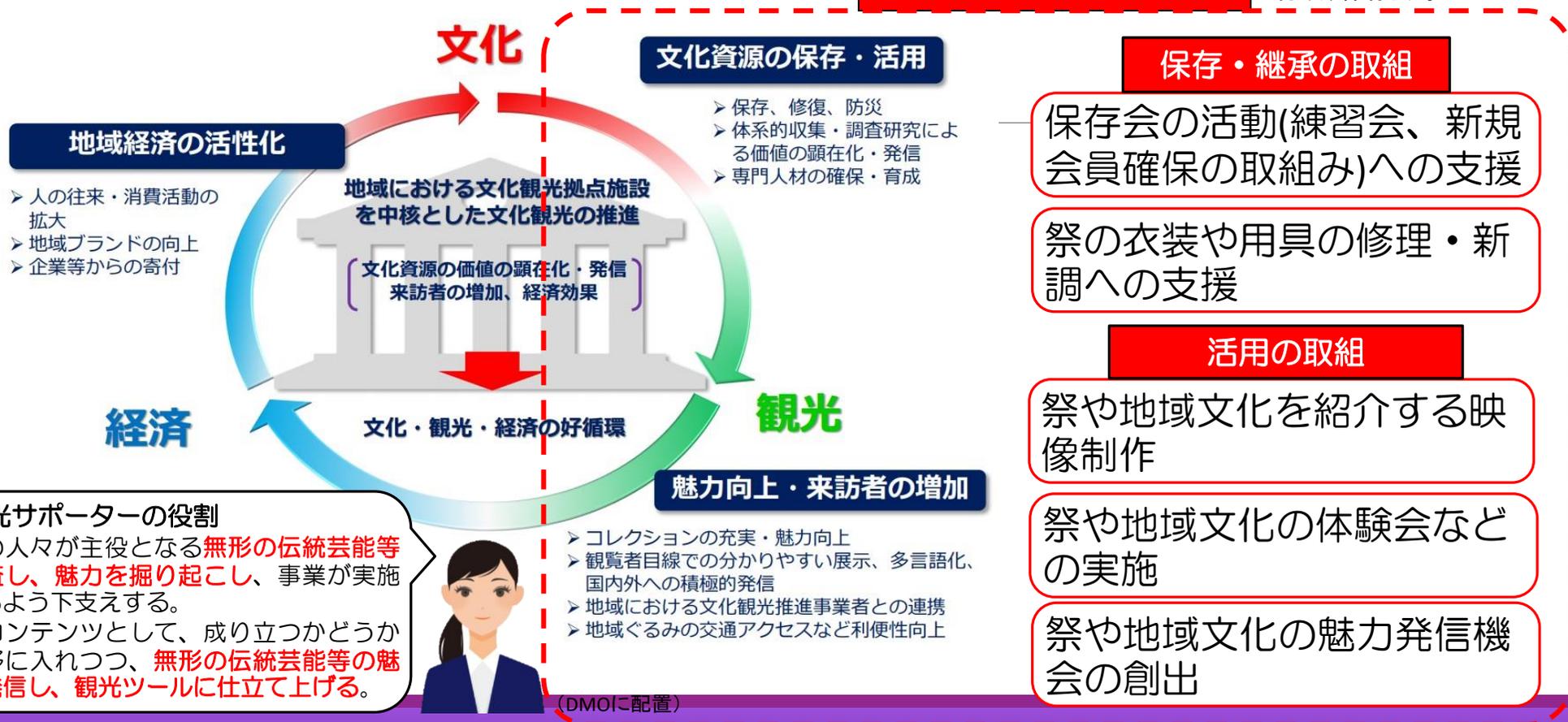
●地域文化を活用した地域活性化プロジェクト

- 祭や地域文化の継承を担う保存会等で構成する協議会を構成
- 文化庁補助事業を活用し、地域文化の保存、継承を目的とした「文化観光」への活用の取組を実施

文化観光推進法で目指す 文化・観光・経済の好循環

活性化連絡協議会の取組

(構成)
行政、保存会等



～ 1 : 地域文化を保存・活用する取組②～

文化観光サポーターの設置

(R7年6月現在、府内に13人を配置)

- ・ 地域の人々が主役となる無形の伝統芸能等を調査し、魅力を掘り起こし、事業が実施されるよう下支え
- ・ 観光コンテンツとして成り立つかどうかを視野に入れつつ、無形の伝統芸能等の魅力を発信し、観光資源に磨き上げ

①映像作成

- ・ 無形の伝統芸能等を映像として保存することで地域文化の継承だけでなく、その魅力発信を支援
- R6年度実施結果
相楽神社正月行事(木津川市)など
- R7年度実施予定
今まで制作した映像の活用を進める



～ 1 : 地域文化を保存・活用する取組③～

②モニターツアー一造成

- ・ 地域文化の継承につなげるため、保存会等と連携し地域の伝統芸能等の体験を組み込んだモニターツアーを企画・実施

➤R6年度実施結果

宮津おどりを活用した丹後ちりめんを巡るツアー(宮津市)
京丹後市峰山町を舞台とした謎解きモニターツアー(京丹後市)
金継&額田モニターツアー(福知山市)

➤R7年度実施予定

3地域で2～3件のモニターツアーを造成



③京のかがやき

- ・ 府内にある民俗芸能の魅力をより高めて発信するため、民俗芸能団体を一堂に集め、光や音楽等の演出を加えたこれまでにない民俗芸能大会を実施

➤R6年度実施結果

◇開催日：令和7年2月8日(土)
◇会場：祇園甲部歌舞練場
◇来場者数：455名

➤R7年度実施予定

◇開催時期：令和8年2月
◇会場：上七軒歌舞練場



～ 1 : 地域文化を保存・活用する取組④～

● 博物館ネットワーク・地域活性化事業

～京都府ミュージアムフォーラムの取組～

- ミュージアムフォーラムのネットワークを活かした博物館等の魅力・機能向上につながる取組を実施し、博物館等を核とした、地域の魅力の掘り起こし・地域文化の発信や次世代と地域文化を「つなげる」取組を展開

博物館を核とした地域の魅力の発信

【合同展覧会事業／合同ワークショップ】



【ミュージアム連携地域活性化プロジェクト】



(長岡京コースの様子)

博物館を核とした次世代継承

【次世代と地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト「つなプロ」】



(永守コレクションギャラリーやからくりメーカー工場見学)

博物館の機能強化・博物館支援の取組

【石川県連携 合同研修会(ミュージアム防災)】



【専門人材派遣研修】



ミュージアムドック (乃村工藝社)

～ 2 : 文化を次世代に継承する取組①～

●文化の心次世代継承事業

「文化の心」の次世代への継承を図るため、府内の児童・生徒が茶道・華道等の生活文化や狂言などの伝統文化を体験する機会を創出

学校・茶の湯／いけばな・出会いプロジェクト

- 文化の心を次世代に継承することを目的に茶道4流派、京都いけばな協会と協力し、小・中学校、特別支援学校等(以下、「学校等」という)へ講師を派遣

学校・アート・出会いプロジェクト

- 学校等に芸術家等を派遣することで、古典芸能等に興味関心を抱いたり、地域の文化資源を用いて子どもたちが地元の文化に誇りや愛着を持つことができるプログラム

地域文化施設プロジェクト

- 地域の文化施設等を拠点とし、子供たちが地域の生活文化等を体験できる機会を提供

⇒ 令和6年度は、147件、延べ約13,000人の子どもたちに、生活文化体験や伝統文化体験を実施
令和7年度は、生活文化体験をさらに充実(茶の湯・いけばな体験 R6実績:49件⇒R7目標:150件)



～ 2 : 文化を次世代に継承する取組②～

● きょうとまるごとお茶の博覧会

京都の茶文化を支える茶人や茶商、茶の生産者から茶器や茶道具、茶菓子の職人までが一緒になって、万博を契機に京都を訪れる国内外の人々に京都の茶文化を発信

オープニング茶会

- 京都市内で、府民や大阪・関西万博を契機に訪れた方々が参加できる茶会などを開催

府内各地の特色あるお茶の取組

- 府や市町村、民間団体などが茶会や茶摘みの体験などお茶に関する取組を府内各地で展開

お茶でつながる国際交流 ～国際茶会～

- 府内の児童・生徒が万博参加国の生活・文化を探究するなど万博参加国の方々と茶会を通じて交流

⇒ 府立高校、府立特別支援学校など計22校が参加し、

フランス、スイス、モンゴル、スリランカなどの万博参加国出身の方々とお茶を通じた国際交流を実施中

学生プロジェクト

- 京都の大学生たちが自由な発想でお茶をテーマとした商品開発やイベントを企画・実施

北野大茶会 (グランドフィナーレ)

- 北野天満宮でお茶に関する様々な取組が集結する大茶会を開催(10月11～13日)



(案)

令和7年 月 日

京都府議会議長 荒 卷 隆 三 殿

文化力と価値創造に関する特別委員長 林 正 樹

閉会中の継続審査及び調査要求書

本委員会に付されている事件は、下記の理由により、引き続き審査及び調査を要するものと認めるから、京都府議会会議規則第75条の規定により申し上げます。

記

1 件 名

伝統文化、生活文化などの継承・発展や文化と観光、食、伝統産業、先端産業などあらゆる分野との融合により、新たな価値を創造し、発信するための施策について

2 理 由

審査及び調査が終了しないため

行催事等に係る委員会調査一覧表(案)

文化生活部

行催事等名	主催者名 (招待者名)	会 場 (市区町村名)	日 時
アニメ「鬼滅の刃」全集中展 -刀鍛冶の里編・柱稽古編-特別内覧会	京都府、京都府京都文化博物館、 関西テレビ放送、京都新聞	京都府京都文化博物館 (京都市中京区)	令和7年7月17日(木) 午後3時30分～5時

令和7年5月22日

京都府議会議長 石 田 宗 久 殿

文化力と価値創造に関する特別委員長 田中 美貴子

文化力と価値創造に関する特別委員会中間報告書

京都府議会議事規則第46条第2項の規定により、令和6年5月府議会臨時会閉会後から現在に至るまで、本委員会が調査及び研究してきた状況について、別紙のとおり中間報告いたします。

(別紙)

文化力と価値創造に関する特別委員会中間報告書

1 本委員会の設置目的

伝統文化、生活文化などの継承・発展や文化と観光、食、伝統産業、先端産業などあらゆる分野との融合により、新たな価値を創造し、発信するための施策について調査し、及び研究する。

2 本委員会の活動状況

(1) 委員会の開催について

- 令和6年6月7日、第4委員会室において、関係理事者から所管事項に係る事務事業概要について説明を聴取した。また、今期の委員会運営方針について協議を行った。
- 令和6年6月26日、第4委員会室において、「本委員会の調査事項に関連する施策等について」をテーマに委員会を開催し、関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取し、これに対する質疑を行った。また、「今後の調査・研究テーマについて」をテーマに委員間討議を行った。
- 令和6年10月1日、第4委員会室において、通圓茶屋24代当主 通円 祐介氏及び京料理辰巳屋8代目主人 左 聡一郎氏を参考人として招致し、「地域文化の担い手の活動と現状をめぐる諸課題について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該両参考人から地域文化の担い手の活動などについて、説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和6年12月17日、第4委員会室において、三河内の曳山行事連合会 会長・地縁法人大道町内会 委員長 村山 周平氏、地縁法人奥地町内会 会長・三河内地区公民館 主事 安達 博志氏及び地縁法人大道町内会 副委員長 倉橋 慶一氏を参考人として招致し、「伝統行催事の次世代への継承について—与謝野三河内の曳山祭を事例として—」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から伝統行催事の次世代への継承について現状や課題についての説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和7年3月17日、第4委員会室において、立命館大学ゲーム研究センター長・映像学部映像学科 教授 渡辺 修司氏を参考人として招致し、「京都が培ってきた日本文化の発信とコンテンツ産業の振興の取組について」をテーマに委

員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人からゲームの仕組と文化のつながりなどについて説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。

- 令和7年5月22日、第4委員会室において、中間報告に係る協議を行った。
最後に、今期1年間の委員会活動に係る所感、要望等の意見開陳を行った。

(2) 管内外調査の実施について

以下の取組について調査を行った。

- 調査日：令和7年1月28日

調査先：宇治市議会〔現地視察：京都宇治茶房 山本甚次郎〕（宇治市）

調査事項：宇治学による小中学生への文化学習・伝承の取組について

宇治市では、市内全小・中学校で実施している小中一貫の特色ある教育活動として、総合的な学習の時間に「宇治で学ぶ、宇治を学ぶ、宇治のために学ぶ」をコンセプトとした「宇治学」を実施している。その内容は、児童生徒が地域社会の一員としての自覚を持ち、「ふるさと宇治」をよく知り、諸課題に対し、主体的・創造的・協働的に取り組むことで、課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質や能力を育成することを目指すものである。

2010年度の総合的な学習の時間の活用から始まり、2012年度から宇治市の小中一貫教育の目玉として位置付けられた。小学3年生から中学3年生までの7年間、年間70時間のカリキュラムで、各担任が自由に組み立てることとされたが、学校間で格差が生じたことなどから京都文教大学に副読本の作成を依頼し、各学年の重点単元として、小学3年生は「宇治茶」、4年生は「自然」、5年生は「福祉」、6年生は「歴史・観光」、中学1年生は「防災」、2年生は「キャリア教育」、3年生は「宇治市への提言」と設定された。端緒となる宇治茶の学びについては、地元の生産者から茶葉の提供などの授業協力が行われており、お茶を飲む学習や生産現場・工場の見学も用意されている。

また、1848年（嘉永元年）に建てられた築170年の店舗兼住宅で「国選定重要文化的景観」に指定されている「宇治茶茶房 山本甚次郎」において、独特の芳香とまろやかで豊潤な風味を併せ持つ貴重なお茶ができる「本ず栽培」や、副読本でも紹介されているお茶を乾燥させる現役で最古の「堀井式碾茶乾燥炉」を用いた宇治茶の生産工程について説明を受けた。宇治においても茶園は減少傾向にあり、後継者が連携して守っていくうえでも宇治茶に関する地域の理解を醸成する宇治学は重要と説明があった。

これからも、探究的な学びから課題解決学習を進め、さらに地域社会との絆を

作る文化を活用した学習をさらに進めていくとのことであった。

○調査日：令和7年1月28日

調査先：敦賀市議会（福井県敦賀市）

調査事項：和食文化を支える「敦賀昆布ストーリー」創出・発信事業について

敦賀市は、福井県のほぼ中央に位置し、平安時代以前から大陸との窓口として、また、日本海を北前船が行き来した時代には、「京」や「大坂」の玄関口として栄えた都市であり、令和6年3月北陸新幹線敦賀駅が開業したところでもある。

敦賀は、古来から日本海に面した物流拠点として栄えていたが、流通商品の中でも蝦夷地方（北海道）から運ばれた昆布は、都への献上品であり、当地で加工することにより料理用から菓子用まで様々な商品が作られてきた。中でもおぼろ昆布は、酢に浸し、柔らかくして特殊な包丁で削ってつくる商品で、見た目は透けるように薄く、口の中で溶けるような食感が特徴で、職人の手により一枚ずつ丁寧に削られている。

市では、全国の80%のおぼろ昆布が生産されており、200人ほどの昆布職人が伝統の技で生産しているが、職人数の減少・高齢化が進行しており、産業自体が廃絶の危機にある。

そのため、職人と協力したおぼろ昆布の手すき体験を行うほか、令和4年度文化庁の「食文化ストーリー」創出・発信モデル事業の採択を受け、パリでのPRなど認知の向上に取り組んだ。しかしながら、外国人は強い酢の匂いに抵抗があることや見た目が食べ物に見えないといった意見があるなど、海外展開には、課題が残った。

今後の展開として、おぼろ昆布の生産は、文化財保護の観点だけではなく、産業として維持していくために、新規就労者へ助成する後継者育成支援や、原材料仕入れ等に助成する生産活動支援、食材利用促進などを進めていく必要があると考えている。

こうした中、令和7年1月に開催された国の文化審議会において、敦賀市特産の「おぼろ昆布」を作る際に、職人が専用の刃物で巧みに昆布を薄く削る伝統的な製造技術が評価され、無形民俗文化財として新たに登録するよう文部科学大臣に答申された。答申どおり登録されれば福井県では初、全国では8件目の登録となる。

今後もおぼろ昆布について文化財としての保護と産業政策を組み合わせる取組を推進していくとのことであった。

○調査日：令和7年1月29日

調 査 先：金沢市議会〔於：金沢21世紀美術館〕（石川県金沢市）

調査事項：金沢21世紀美術館ミュージアム・クルーズ事業について

金沢21世紀美術館は、金沢市が金沢城周辺のエリアに整備した現代アート的美術館として、2004年10月に開館して以来、集客力は国内トップクラスで、近年の美術館の集客ランキングではベスト3にランクインしている。

コンセプトは、①「世界の『現在（いま）』とともに生きる美術館」、②「まちに生き、市民とつくる、参画交流型の美術館」、③「地域の伝統を未来につなげ、世界に開く美術館」、④「子どもたちとともに、成長する美術館」の4つであり、④の目標に関連して、「見て」、「触れて」、「体験できる」最適な環境の提供と、子どもの成長とともに美術館も進化し、時代を超えて成長することを目指している。

美術館は、展示作品のある屋外エリアと館内の交流ゾーンは無料で解放しており、市民の交流などの場としても利用できるほか、芸術・文化に関する教室も開催されている。平日に小さな子ども連れで美術館を楽しめるスペースを整備したり、休日には、小学生たちも素材に触れ、作品を制作することを楽しめるイベントも開催される。

11月2日から約4か月かけて、特別プログラムとして「ミュージアム・クルーズ・プロジェクト」が行われ、金沢市内の小学校・中学校・養護学校等全95校の全児童4万人余りが招待された。この事業は、翌年からは子どもたちに対する教育普及活動として、小学4年生を対象に「ミュージアム・クルーズ」として継続されている。五感を通して作品に出会い、触れ合うことで、子どもたちの感受性や創造性、自主性や思考力、表現力等を育むとともに想像力とコミュニケーション力を育てることが目的で、美術館における文化体験を学校教育に生かすことで、子どもたちの“感じる心”をより効果的に育てることができ、これまでに11万人を超える小学生が参加している。

市民ボランティアの協力により運営され、事前学習をしたボランティアがガイドマップを用いて行われている。既に20年が経過したことから、当初の参加者が今は市民ボランティアとして参加するなど、世代を超えた市民参加の運用が定着しており、今後もこうした事業をさらにバージョンアップしながら継続させていくとのことであった。

○調 査 日：令和7年1月29日

調 査 先：石川県議会〔於：いしかわ生活工芸ミュージアム〕（石川県金沢市）

調査事項：石川県の伝統文化の普及・啓発、伝承の取組について

石川県が設置した「いしかわ生活工芸ミュージアム」は、県の伝統工芸品を収集した博物館で、兼六園に隣接している。ミュージアム内には、経済産業省指定の伝統的工芸品10種を含む36業種の作品が展示紹介されており、九谷焼等いくつかの工芸品では、製作工程がわかる展示となっている。展示は「衣・食・住・祈・遊・音・祭」に分かれており、伝統と今を結ぶ新しい生活提案も行われている。展示以外にも、工芸品ワークショップや企画展示、コンサート、セミナーなどが開催されている。

令和2年に東京から同館付近に移転した国立工芸館と区別するため、同年4月から、通称を石川県立伝統産業工芸館から「いしかわ生活工芸ミュージアム」に変更した。

令和5年度の年間入館者数は、兼六園が2,140,462人、金沢21世紀美術館が1,974,773人、ミュージアムは、90,938人で、金沢城周辺の文化エリアとして、一体的に観光客等が利用していることを示している。また、隣接する兼六園側にも入口を整備していることも利用者が多い要因である。

ミュージアム入口には、県内の全伝統工芸士の名前を示す木札があり、また、展示品には、購入できるよう値札がつけられている。購入者は、インバウンド客だけでなく、国内観光客も多く、ミュージアムの手数料収入が10%で約1千万円くらいであることから、1億円以上の売り上げとなっている。

伝統工芸に関わる人材育成支援については、金沢市内の産業は金沢市が、それ以外は県が中心に支援している。

今後も、石川県の生活工芸情報の発信や情報提供、また、ワークショップの開催による体験機会の提供に努めていくとのことであった。

3 本委員会の所管に係る主な動き

- 令和6年10月、京都府は、日本茶の歴史を再認識し、お茶に親しむ府民が拡大するとともに、万博を契機に京都を訪れる人々をもてなし、京都のお茶の文化が広く世界に発信する「きょうとまるごとお茶の博覧会2025」を開催した。
- 令和6年11月、京都府は、国立京都国際会館において、「現代アートとコラボレーション」をコンセプトに、現代アートに特化したアートフェアとしては日本最大級の第4回の「Art Collaboration Kyoto」(ACK)を開催した。
- 令和7年3月、京都府は、京都府立植物園100周年記念事業としてアーティストの活躍の場を創出するとともに府立植物園の魅力拡大を図るため、メディアアートプロジェクト「LIGHT CYCLES KYOTO(ライトサイクル キョウト)」を開催した。

4 残された主な課題

本委員会の設置目的に掲げられた諸課題について、調査及び研究を進めた結果、なお引き続き調査及び研究を要する次のような課題が残されていると考える。

- 文化・観光・経済の好循環に結び付く文化と産業を融合させる取組の推進
- 次世代の子どもたちが、学校教育や地域行事を通じて文化を大切にする心を育てる取組の推進
- 社寺や民俗芸能などの有形・無形の文化財を継承・発展させる取組の推進
- 文化庁と連携した日本文化発信の新たな取組の推進

文化力と価値創造に関する特別委員会 活動状況 <付録>

(令和6年5月～令和7年5月)

年月日	区分	主な内容
6. 5.24	委員会	1 委員長の選任 2 副委員長の選任 3 副委員長の順位
6. 4	管内調査	▷ 企画展「五彩を感じて 印象の墨の世界」 及び同時開催「第5回京都工芸美術作家展」内覧会 (行催事等委員会調査)
6. 7	正副委員長会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 本日の委員会運営
6. 7	委員会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 所管事項に係る事務事業概要 4 今期の委員会運営方針 5 今後の委員会運営
6.14	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
6.26	委員会	1 所管事項の調査 「本委員会の調査事項に関連する施策等について」 2 委員間討議 「今後の調査・研究テーマについて」 3 閉会中の継続審査及び調査 4 今後の委員会運営
7. 5	管内調査	▷ 特別展 日本の巨大ロボット群像 —鉄人28号、ガンダム、ロボットアニメの浪漫—特別内覧会 (行催事等委員会調査)
8.27 ～28	管内外調査 (中止)	▷ 宇治市議会 ▷ 敦賀市議会 ▷ 金沢市議会 [於：金沢21世紀美術館] ▷ 石川県議会 [於：いしかわ生活工芸ミュージアム] ※台風10号の接近により中止
9.12	管内調査	▷ 生誕140年記念 石崎光瑠 特別内覧会 (行催事等委員会調査)
9.19	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
10. 1	委員会	1 所管事項の調査 「地域文化の担い手の活動と現状をめぐる諸課題について」 参考人：通圓24代当主 通円 祐介 氏 京料理辰巳屋8代目主人 左 聡一郎 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
10.17	管内調査	▷ 京都府立植物園「LIGHT CYCLES KYOTO」内覧会 (行催事等委員会調査)

年月日	区分	主 な 内 容
10.31	管内調査	▷ 「Art Collaboration Kyoto」オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
11.22	管内調査	▷ 日中平和友好条約45周年記念世界遺産 大シルクロード展開会式 (行催事等委員会調査)
12. 9	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
12.15	管内調査	▷ 令和6年度全国高校生伝統文化フェスティバル (行催事等委員会調査)
12.17	委員会	1 所管事項の調査 「伝統行催事の次世代への継承について —与謝野三河内の曳山祭を事例として—」 参考人：三河内の曳山行事連合会 会長 地縁法人大道町内会 委員長 村山 周平 氏 地縁法人奥地町内会 会長 三河内地区公民館 主事 安達 博志 氏 地縁法人大道町内会副 委員長 倉橋 慶一 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
7. 1.28 ～29	管内外調査	▷ 宇治市議会 ▷ 敦賀市議会 ▷ 金沢市議会 [於：金沢21世紀美術館] ▷ 石川県議会 [於：いしかわ生活工芸ミュージアム]
1.30	管内調査	▷ 第43回京都府文化賞交流会 (行催事等委員会調査)
2. 8	管内調査	▷ 京のかがやき2025～民俗芸能を未来へつなぐ～ (行催事等委員会調査)
2.14	管内調査	▷ 「カナレットとヴェネツィアの輝き」内覧会 (行催事等委員会調査)
3.13	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
3.17	委員会	1 確認事項 2 所管事項の調査 「京都が培ってきた日本文化の発信とコンテンツ産業の振興 の取組について」 参考人：立命館大学 ゲーム研究センター長 映像学部映像学科 教授 渡辺 修司 氏 3 閉会中の継続審査及び調査 4 今後の委員会運営
4.14	管内調査	▷ 特別企画展「伊東深水 時代の美、つややかに」開会式 (行催事等委員会調査)
4.25	管内調査	▷ 特別展「和食～日本の自然、人々の知恵～」特別内覧会 (行催事等委員会調査)
5.22	正副委員長会	1 臨時会中の委員会運営

年月日	区分	主な内容
5.22	委員会	1 中間報告 2 委員会活動のまとめ ※ 発言内容は別紙のとおり

委員会 7回 管内調査 12回 (12日)
 正副委員長会 6回 管内外調査 1回 (2日)

※ 台風10号の接近により8月の管内外調査を中止し、1月に実施

令和7年5月臨時会 委員会活動のまとめ

○水谷修委員

1年間、正副委員長、各委員、理事者、そして議会事務局の皆様方には大変お世話になり、ありがとうございました。

文化力を高め地域文化の向上のための施策充実が求められています。とりわけ地方や地域の人口減少などによって地域社会の文化の保存や創造のための支援を進めることが重要だと思います。

本特別委員会では、10月に参考人招致し「地域文化の担い手の活動と現状をめぐる諸課題について」を、12月には参考人招致し「伝統行催事の次世代への継承について」を、3月には参考人招致し「京都が培ってきた日本文化の発信とコンテンツ産業の振興の取組について」をテーマに委員会を開催していただきました。

今後は、文化力と価値創造に係る府理事者との議論を広く行えるような運営について御検討いただき、次期の特別委員会運営が発展できますように要望いたします。また、担い手の育成や支援を強めるための対策の拡充がされることを求めて、私のまとめとさせていただきます。ありがとうございました。

○楠岡誠広委員

まずは、本特別委員会の運営に様々御尽力をいただきました田中委員長、四方副委員長、片山副委員長をはじめ、活発な議論をさせていただきました委員の皆様、理事者の皆様方、そして御協力いただきました全ての方々に感謝を申し上げます。

昨年度、私は農商工労働常任委員会に所属させていただきました。農業にしても伝統工芸にしても文化をバックグラウンドにした価値があって、文化と経済が密接につながっていると強く感じてまいりましたので、この文化力と価値創造に関する特別委員会に参加できましたことをうれしく思っております。

また、私自身が中小零細企業といえますか、いわゆる跡継ぎと言われる小さな事業継承も含めて会社の経営に携わってきた経験から、文化の担い手に関しても事業の持続的な発展、継承を続けることも本質的なテーマだと思って学んでまいりました。

また、令和6年1月より大河ドラマ「光る君へ」が放送されまして、私も非常に楽しんで拝見をさせていただきましたが、源氏物語を通じまして私の地元の宇治が注目を浴びた年でもございました。

所管事項の調査においては、地域文化の担い手の活動と現状をめぐる諸課題について京料理を辰巳屋様に、そしてお茶に関しては通圓様からそれぞれデモンストレーションもいただきながらの御説明をいただき、また、地域社会と地域文化とのつながりを大切にしながら事業を続け、文化を脈々と継承されていらっしゃる現状をお聞きできました。

管内調査におきましても、宇治学や京都宇治茶房山本甚次郎様の現地視察もあり、また、私にとっては田中委員長をはじめ水谷委員と、宇治に携わる委員も多くいていただいたことで、さらに本委員会の活動を身近に感じることができましたことを改めて感謝を申し上げ

げます。

管外調査におきましては、「敦賀昆布ストーリー」創出・発信事業について視察をさせていただきます。職人が紡ぐおぼろ昆布のPRや生産の現状を学びました。ここでも文化継承は事業の継承、経済や生活に深く結びついたテーマであることを再認識いたしました。

特に、昨今は働き方改革など様々な業種で職場環境が改善をされていく中で、個人事業や零細と言われる事業体は、他業界や大企業などと担い手確保の競争をしながら文化の継承をしていかなければならない厳しい現状にあり、これは本府における伝統産業や文化継承に通じるテーマだと思っておりますので、今後どの委員会に所属しようとも私自身しっかり取り組んでいきたいと思っております。

一方で、純粹に文化を強みにした集客事業という意味でのミュージアム事業を多く拝見できたことで、文化の持つ魅力を肌で多く感じられたことは私にとって非常に意義深い1年でありました。

管外調査では、金沢21世紀美術館において、美術館における子どもの鑑賞活動を継続的に実施するミュージアム・クルーズ事業について、地域に根差しながら観光の施設としての充実も図ってこられた現状を拝見いたしました。また、県の伝統工芸品を収集した博物館であるいしかわ生活工芸ミュージアムにも訪れました。

また、ふだんの委員会調査などで京都文化博物館や堂本印象美術館にも足を運ぶ機会を多くいただきまして、個人的に美術や文化に触れ、その魅力を知ることができました。今後も京都府が持つ文化のポテンシャルを一つ一つ大切に発信していきたいと思っております。

また、さきの2月定例会におけるコンテンツ産業の振興の取組におきましては、立命館大学ゲーム研究センター長をお招きして、いわゆるテレビゲームも含めたゲームを文化コンテンツとして振興している現状を学びました。自身が小さな頃から日常生活の中で遊んできたものが、この数十年で文化へと昇華していくことに驚きと同時に懐かしさも感じながら、いかに文化が生活に根差したものであるか、現代の生活の中から感じられる経験でもございました。

最後に、この1年間、本委員会活動におきまして様々な場面で皆様に見守っていただきまして、時には温かく声をかけていただきましたことを改めて感謝申し上げます。本委員会の皆様並びに理事者の方々の御活躍、そして府民一人一人の御健康を祈念申し上げ、私の1年間のまとめとさせていただきます。どうもありがとうございました。

○大河内章委員

初めに、田中委員長、四方副委員長、片山副委員長におかれましては、委員会運営に御尽力を賜りましたことを感謝申し上げます。また、委員の皆様、理事者、事務局の皆様には大変お世話になりありがとうございました。

文化庁の京都移転を契機とした新たな文化の価値創造、地域文化を活用した活性化、日本文化の国内外への発信など多くの学びとなりました。とりわけ、地域文化の担い手の活動と現状をめぐる諸課題については、参考人として通円様、辰巳屋の左様より貴重なお話をお伺いすることができました。併せまして、伝統に裏打ちされた香り高いお茶と、身にしみわたるだしを頂戴しましたことを併せて感謝申し上げます。御自身の事業に取り組まれる一方で、様々な伝統文化に深く関わられておられ、その継承に取り組まれていること

の重要性を学ばせていただきました。

また、京都が培ってきた日本文化の発信とコンテンツ産業の振興の取組について、立命館大学のゲーム研究センター長の渡辺参考人から日本の文化であるアニメやゲームのさらなる可能性をお聞きし、京都におけるゲームの取組への期待、時間と空間と体験を共感できる人の密度、ゲームの伝統は既に京都に存在し、手と手を紡ぐ教育と研究がなされている、世界に誇れる京都のゲーム文化ということをお聞きさせていただきました。

以上、様々な京都という素晴らしい場所の強み、そして世界から京都にまだまだ絶えず多くの観光客が来られておられますが、京都には伝統的なものと最新のものが存在する唯一無二の場所として、ますますその価値は高まっていると感じております。この委員会での参考人のお話、京都や文化の中心としての役割をさらに発展していくことの使命があると感じました。この委員会での学びを生かしまして、今後の活動につなげていきたいと感じております。

最後になりますが、皆様方に御指導賜りましたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

○宮下友紀子委員

田中委員長、そして四方、片山両副委員長、委員の皆様、理事者の皆様、そして事務局の皆様、1年間大変お世話になりました。ありがとうございます。

この1年、委員として活動させていただき、京都ならではの文化の奥の深さや、その魅力をどう未来へつないでいくか、様々な学びと気づきを得ることができました。心より感謝申し上げます。

特に印象に残っていますのは、宇治学による小・中学生への文化学習・伝承の取組です。その取組は、小学校で地域の方々と連携しながら伝統文化を子どもたちに伝える。ただ伝統文化を教えるだけではなく、和の芸能や地域の行事の体験を通して心に刻むような形で取り組まれており、文化というのは形だけではなく、そこに込められた心を伝えていくことが大切だと改めて感じさせていただきました。

また、与謝野三河内曳山祭の調査では、地域の皆さんが協力し合い、祭りの中にあるのは、にぎわいや伝統だけではなく、人と人がつながる深い思いやりの心であり、地域文化とは人の生き方そのものを映し出すものだと強く感じました。

私は、私たちが担うべき大事な役割は、先人たちが紡いできた心や生きる姿勢を、地域の文化を通して次の世代へとつないでいくことだと思います。社会の一員としてどう生きるのかを文化が教えてくれていること、その場や機会を守っていくことが私たちには求められていると感じております。

京都府におかれましても、こうした取組を通して、思いを大切に、文化の力を未来へとつなぐ取組を丁寧に進めていただけるよう願っております。私は、この委員会で学んだ知識や経験を今後の府政の発展に生かしていきたいと思っておりますので、皆様におかれましては、引き続き御指導いただきますようお願い申し上げます。私からのまとめとさせていただきます。

1年間本当にお世話になりました。ありがとうございます。

○荒巻隆三委員

まず初めに、正副委員長並びに委員の皆さん、また、それをお支えくださいました事務局の皆さん、本当にありがとうございます。また、理事者の皆様にも様々に議論をしていただき、指摘・要望を受け止めていただいたり、御努力いただいておりますことに感謝を申し上げます。

1年間、様々にこれまで見聞きしたことの無い文化の事例に触れさせていただきまし、また遠方に管外調査にも行かせていただきました。京都以外の他県における先進例とか、それぞれの府県が持つ地域の強みや個性、そして、またそういう存在感をいかにこのまちに来てもらうかという、そういう思いの中で、時代に合わせた形でいろんな工夫や演出をされて、その地域が持っている歴史とか文化財とか、その魅力を様々に企画して人を魅了している他県の例を見て大変感心したところでございました。そういう企画もしていただいて、重ねて事務局の皆さん方にもねぎらいの言葉をかけたいと思います。

一方、ふるさととは遠きにじゃないですけども、我がまち京都はと思ったときに、やっぱり我々京都というのは悠久の歴史の中で育まれた、並び立つものがないような世界に冠たる文化が集積された誇りある府だなということを改めて思うところでありました。

その中で今、文化と言えば観光という点もございますけれども、オーバーツーリズムとかがある中で、何かまるで京都はこういうイメージじゃないかと思っている人向けの迎合主義のような、京都はそんな見せ方をしていたかなというもので増えているというのが今の問題の中で、いわゆる京都自体が京都の文化や観光の在り方に迷走しているんじゃないかという、課題が出ているんだと思います。各京都府域のお祭りの事例を紹介していただいた定例会の委員会もございましたけれども、我々の住まう京都府域全域に、京都市だけじゃない、歴史に裏打ちされた世界の多くの人を魅了してやまない魅力がこれだけあるんだったら、今そういう今後の分岐点の中で、一旦仕切って整えていかなければならないという思いが増した1年でございました。

そのときの議論にもありましたけれども、やはり地域で守っているものをいかに持続可能なものにするかという現実において、具体的には社会構造の変化の中で担い手がいないとか、人口流出で教え手がまだかろうじて残っていても、それを受け継いでくれる方がいないとかいうことを、いかに地域に寄り添って支えるとか、あとそういう世界観を演出しているものは、様々な工芸品や商工業に携わる裾野の広い話でもありますので、そういう文化を支えている産業もしっかり行政が、京都府が助けてあげないといけない状態だなというふうに改めて1年を通じて思ったので、そこは重ねて要望をさせていただきたいと思っております。

そういう意味で経済的な資金もかかることを民間のでき得る努力の中で、見えないところでそういうふうに御努力してくださった方々もこれから減っていく中で、歴史を紡ぐことに意義があるという、また啓発の中で京都の魅力ある文化をよみがえらして、それがひいては地域を活性化させること、また京都を変わらぬ良さで、これからも文化を誇る、あまたある都道府県の中でも一番最先端の姿を実現していかなければいけないという責務があると思っております。いろんな政治や、いろんな国内・国外の情勢が大変な中において、文化というものがおろそかにされないように、それを守るのは京都府しかないというぐらいの気概を持って理事者の皆さんには、今の仕事をさらに御努力して、御奮迅いただいて、御検証していただきたいなという思いを心からエールを送らせていただきまして、

改めまして重ねて委員の皆様、事務局の皆様へ感謝を申し上げます、最後の所感とさせていただきます。1年間ありがとうございました。

○成宮真理子委員

田中委員長、四方副委員長、片山副委員長、そして委員の皆様方、また理事者と事務局の皆様方、お世話になり本当にありがとうございました。

本委員会は、文化力と価値創造というテーマで伝統的な行事や料理やお茶などの生活文化から、ゲーム、先端産業まで調査を重ねてまいりました。それぞれのお話や、視察先では現場の御苦労だとか次世代への継承の努力などを学ばせていただいて、この場をお借りして感謝を申し上げたいというふうに思います。

同時に、我がまちという話がさっきもありましたが、京都における文化はどんな実情にあるのか、府民の財産として誰もが文化を享受できるように発展させていくにはどうしたらいいのかということを含め、深め切る議論までは、時間的な制約もあって至らなかったかなというふうに感じております。今後はぜひ理事者の皆さんとともにそうした議論ができるように、この場で求めておきたいというふうに思っているところです。

それで、文化力と価値創造というテーマについて申し上げますと、芸術文化そのものの本質的価値があるわけですが、これを何か軽んじてしまって活用ばかりが追求されるような傾向になってはいけないというふうに常々感じているところでございます。というのは、本府では昨年「文化が活きる京都の推進に関する条例」を制定しました。前文には「企業活動を含めて、府民の多様な文化的・経済的諸活動に京都の文化の力を活かしていく」というふうにありますけれども、審議会委員の中からは「もうかる分野の芸術のみがよしとされた30年間の文化政策は失敗であり、文化政策の根本的転換が必要だ」とか「経済活動といった言葉が強い力や意味を持ち過ぎることがある。文化を損なうことにならないよう、文化を守ることに優先度を高くすべき」というような意見もあったというふう聞いております。

この条例制定の背景にあります2017年改正の文化芸術基本法は、文化を産業や観光に生かすとした点が強調されがちですが、実は文化芸術そのものの価値を改めて位置づけております。前文では、「文化芸術は、人々の創造性をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものであり、世界の平和に寄与するもの」としており、「表現の自由の重要性を深く認識」という言葉も加えられました。

文化芸術を活用すること自体を否定するというものではありませんけれども、稼ぐということばかりが強調されると、稼げないものは後回しなのかなというふうになりかねないと思うんです。表現の自由や多様な表現の尊重にもこれは関わることだと思いますので、ぜひ府として芸術文化そのものの振興へということ、役割を果たしていただきたいと要望したいと思います。

具体的に2点述べておきます。

一つは、文化団体への補助の縮小や廃止、こども文化会館の廃止、府立文芸会館などの使用料値上げ、老朽化対策の遅れ、勤福会館の廃止などで、関係者からは「練習や発表の場が京都にどんどんなくなる」と、「使用料値上げは大打撃」などの声が寄せられています。ぜひ京都でこそ文化予算を増やし、文化団体の活動や文化施設の維持・存続へ役割発

揮を求めるものです。

もう一つは、全ての京都の子どもたちに年1回の学校鑑賞の場を持つてくれないかという運動がずっと粘り強く進められています。関係者は、遠い万博へ行くよりも学校で子どもたちに生のお芝居を見てもらおうじゃないかと、コロナから必死に立ち上がろうとしている劇団や音楽家の皆さんの仕事おこしを京都でこそやろうじゃないかという要求でやっておられるということで、国の制度もありますし本府でも取組はありますけれども、全ての子どもたちへと、ぜひ拡充を求めたいというふうに思います。府民や子どもたちの文化活動、その発展にこそ私は価値が何よりもあるというふうに思うわけです。来期は理事者の皆さんとのそうした議論にも、ぜひ期待をしたいというふうに思います。

1年間本当にありがとうございました。

○北岡千はる委員

まず、本委員会の設置目的を改めて確認をさせていただいたところですが、活動報告の資料にもありまして伝統文化、生活文化などの継承・発展や文化と観光、食、伝統産業、先端産業など、あらゆる分野との融合によりということに記載されていますし、私どももこの委員会が始まる時に確認をさせていただきました。

この設置目的に沿った管内外調査であるとか、この委員会のあらゆる活動に様々に御尽力いただき、また、そのスムーズな運営にも携わっていただきました田中委員長さん、四方副委員長さん、片山副委員長さんに改めて御礼申し上げたいと思います、ありがとうございました。委員の皆様もありがとうございます。視察等でも事務局の皆様にも大変お世話になりましたことも、改めて御礼を申し上げたいと思います。

いろいろな活動、いろいろなところに寄せていただき、また参考人招致もいただく中で、改めてですけれども、やはり各地域、各分野における様々な文化、その継承・発展の要はやっぱり人やなということ強く感じましたし、改めて認識した次第です。全ての活動を例にはできる時間はありませんけれども、とりわけ通圓茶屋さん、そして、また京料理の辰巳屋さん、もう何代にもわたって、しかしながら守るべきところは守る、でも時代に即応したところは変化を伴う中で、より時代に合ったもので次の時代につないでいくということを目の当たりにしました。その御尽力に本当に、日本全国でもあると思いますけれども、この京都のすばらしさというか持つ文化と、先ほど申し上げた人とすばらしい人がいらっしやるということを感じた次第であります。

そして、私自身がずっと質問等々でも申し上げているのは、ミュージアムということで、文化の中でもミュージアムということを取り上げさせていただいております。I COM京都大会以降、京都府のミュージアム、フォーラムということで様々に発展というか、いわゆる博物館等々、ミュージアムを中心とした地域づくりであったり、まちづくりであったり、教育であったりと、もちろん観光もそうですよね。これがいかに必要かということは申し上げてきましたし、視察の中でも先ほどもありました金沢21世紀美術館も拝見する中で、「ミュージアム・クルーズ・プロジェクト」ということで、子どもたちに対する教育、普及活動ということも行われているなということで、これはこの在り方としてかなり有名なミュージアムであります。

京都も今リニューアル中のミュージアム丹後ですかね、所管は教育委員会でありますけれども。ただ、ミュージアムということの一環では、これは今まだ、もうちょっと先にな

ると思いますけれども、本当に地域振興であったり、観光の要であったりということで、そのほかにも京都府ミュージアムフォーラムという連携の中で、「えむえふ」京都府ミュージアムフォーラムということで、それぞれのミュージアムが、随分と連携とか活動が活発になっているというのを拝見しております。他県の例も参考にしながらですけれども、京都府ならではの展開をより一層期待もしますし、また有名、著名と言ったらあれかもしれないかもしれませんが、小さな美術館であったり博物館であったり資料館であったりということは、京都府一円にございます。その皆様方が限られた人数で、限られた予算の中で懸命に地域の文化であったり、歴史をつないでいく、そして皆さんに広めようということで努力をされておりますので、こういった方々が十分に活動していただけるような、そういった支えもぜひ京都府には引き続き御尽力をいただきたいと思います。

いずれにいたしましても、今京都府も、これまで本委員会の所管でもアートとコラボレーションであったり、また府立植物園の100周年事業でマルチメディア・アートプロジェクト、これはすばらしかったですよね。数々の京都府ならではの魅力を発信していただいておりますけれども、今あるものをいかに身近に子どもたちが触れ合うことができるかというようなミュージアムであるとか、京都ならではのミュージアムフォーラムになっていただくことも期待を申し上げます。

いずれにいたしましても様々な資源はありますけれども、それを動かすのは人でありますし、そこに携わっていただいている理事者の皆様方には日々お忙しいと思いますが、より一層の御活躍を期待申し上げます。

改めて皆様方に感謝を申し上げて、結びの感想とさせていただきます。ありがとうございました。

○片山誠治副委員長

田中委員長、また第一副委員長であります四方副委員長、そして委員の皆さん方には1年間、委員会の運営に御協力いただきましたことに、まず感謝を述べたいというふうに思っています。また、管外視察等、定例会の特別委員会の運営に当たりまして、事務局の皆さん方にも大変お世話になりました。また、理事者の皆さん方にも適切な御答弁を賜りましたことに、副委員長として御礼を申し上げます。ありがとうございました。

意外とこの特別委員会という位置づけの中で知見を広げるといふようなことをよく思うんですけども、今回の文化力と価値創造に関する特別委員会、私の感じたことを述べさせていただきますと、知見を深めたという言葉に尽きるかなというふうに思っております。宇治茶、また京料理であったり、食べ物ばかりで大変申し訳ないんですけども、父親の遺言で「口に入れる物だけはこだわれよ」というのを遺言でいただいている人間として、私も大変食べるのが好きな人間でありますので、初めて昆布のだし、いわゆる料理の基本はだしでありますから、あのおいしいのを私は初めて飲まさせていただきました、あれ以来、私が作る料理には昆布をあれぐらい入れんねやなというぐらい入れて大変家計を圧迫、そこまでいってないですけども、それぐらいだしの深さというか奥行きを本当に感じさせていただきました。

また管外視察では、歴史的に言いますとやはり日本海を北前船が北海道から良質な昆布を運んで、それが敦賀を渡り、また京都、大阪へといわゆる食文化の基本をつくったと。

その中でおぼろ昆布と、とろろ昆布の違いを初めて感じまして、いつも私はサバずしが好きなんですけれども上に載っている、これは多分昆布やなと思っていたのを、あんまり好きじゃなかったんですけれども、あれを外して食べていた人間が、あれが一番最後に昆布を削ってできた最後のシート状のやつをサバずしの上に載せるということで、もちろん昆布の深みといいますか、うまみをしっかりとサバに伝えるという役割があるということも初めて知りまして、本当に多くの深いものを勉強させていただきました。

食べ物の話ばかりで大変申し訳ない、雑駁なまとめになりましたけれども、くどいようでありますけれども、委員の皆さん方には本当に1年間お世話になりありがとうございました。

○四方源太郎副委員長

田中委員長、片山副委員長、また委員の皆さん、理事者の皆さん、事務局の皆さんには1年間お世話になりました、ありがとうございました。

この委員会の一番最初の委員会で、どういうことをこの委員会で調査していくかというときにも、皆さん方から大変熱心に、あのとき全ての皆さんが御意見を述べていただいて、そのときの意見として、やっぱり京都というのは本来文化首都ということの名乗っていて、私たちはもっと身近なところにも、我々がちゃんと研究していない、調査していない文化がもっともつとあるのではないかというようなことで、委員長、副委員長とも相談して、本当はこの委員会をこの部屋だけでやるのではなくて、どこか外でできないかとか、あと管内調査ができないかとか、そういう検討を事務局の皆さんも交えてやったんですが、こんなに特別委員会は制約があるんやと思うぐらい全然自由度のないのが特別委員会だということが分かりまして、特別委員会は管内調査ができないということも、もう14年府議会議員をやっていましたけれども初めて知りました。

ただ、文化の首都と言いながら、この委員会がなぜか足元を調査できないということは今後、こういったところで私も意見を言わしていただいて、また来年度以降、何らかの改善をしていただいて、もう少し特別委員会というのは自由にいろんなことができて、特に現地にもっと出向けても良かったなということはあるんですが、その中でかろうじてというか、管内外調査ならできますよということで管外調査のときに宇治に行かしていただいて、宇治学とか宇治茶のことを学ばしていただきましたし、できる限りのことはチャレンジしてみて、いろんなことができて良かったなというふうには感じさせていただきました。

あと、文化とか芸術というのは、これからの時代、もう私たちは技術とかテクノロジーみたいなものの限界が来とるんやないかなと。それを乗り越えて行って、新しい時代を開いていくのはこのアートということやないかなと思っています。今大阪・関西万博が行われていまして、私は行ったことはないし、行く予定も今のところ特にないんですが。ただ、外側から見ると、あれなんかは現代アートなんちゃうかなと思うんですよね。行って良かったという人は、私が聞く限りは、いわゆる何か周りをくると困む木製のリング、あれが良かったという人は結構あるんですよね。あれこそ現代アートというか、芸術的な作品で、それを上に上がったり、下から見たりと、そういうことを楽しんでおられて、現代アートのいろんな展示のところへ私も行ったことがあるんですが、あれはあんまり僕には分からへんのですよね。でも、すごいいいという人ももちろんあるんですよね。

現代アートというか、アートというのは人によって全く真反対の感想が出てくるので、万博に対していいという人とあかんという人が出てくるのは、これは万博がもうテクノロジーの万博ではなくて、アートの万博だからそうなったのではないかなと。同時にテクノロジーの本来は、予約して待たない、行列のできないというのを目指してやったわけですが、結局地図は全然スマホで見れんので紙の地図をもらったほうがいいですよみたいな話になったりして、そういった何かもう人間が求めてきたものの限界がこの万博でよく見えとやないかなと思うと同時に、やっぱりこれからの可能性はこのアートというものにあって、今は何か蚊がたくさん出て困っておられるようですが、あれもアートと考えれば当たり前なんですよ。何か我々人間が生きる限り、ああいう蚊も出てくる。

あれを僕は何か悪いものであるかのように考えていることが、むしろいろんな問題が起きてくるんじゃないかなというふうに思っています。それを私はアートで乗り越えればいいのに、大阪府知事がアース製薬に協力を依頼しとるといふところがちょっとどうかなと思いますが。これからの時代、もう本当に文化芸術は大事ですし、京都の価値というか、やっぱり文化首都である京都というところが文化芸術の中心地で、文化庁がここにあって、日本の将来はこの京都から開かれていくんだらうなということはこの委員会に所属して感じさせていただきました。これからもぜひ文化行政、芸術行政、教育行政、農林業、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○田中美貴子委員長

それでは、閉会に当たり私からも一言御挨拶申し上げます。

昨年5月から本日に至るまでの間、四方、片山両副委員長をはじめ委員の皆様方には、委員会審査や管内外調査など、円滑な運営に格段の御協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。また、理事者の皆様方におかれましても、大変お世話になりまして本当にありがとうございました。おかげをもちまして、大過なく委員長の責務を果たせたことを、この場をお借りいたしまして、委員並びに理事者の皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、本委員会は文化力に注目し、新たな価値の創造・発信のための調査研究を重ねてまいりました。1年間の活動を振り返ってみますと、委員会調査においては、文化財を継承・発展させる取組を推進するため、地域文化の担い手の活動と現状をめぐる諸課題について、及び伝統行催事の次世代への継承について、それぞれ参考人を招致し意見を聴取したほか、京都府の地域特性を活かした産業の創出を支援するため、京都が培ってきた日本文化の発信とコンテンツ産業の振興の取組について、同様に参考人を招致し意見交換を重ねてまいりました。

管内外調査では、宇治市の小・中学校で取り組まれている宇治学による文化学習・伝承の取組について、また、福井県敦賀市においては和食文化の保護・継承に関する取組、石川県金沢市においては金沢21世紀美術館における特別事業について調査するとともに、いしかわ生活工芸ミュージアムにおいて伝統産業の振興に関する取組について調査するなど、他県の先行事例や取組について調査研究を行ってまいりました。

文化力というくくりは伝統産業にもつながるものであり、それを価値創造という観点につなげるのが私としましては大変興味深く、また考えさせられることとなりました。そういう意味では幅広く多くの御意見を頂戴し、私は深掘りができたのではないかと考えて

おります。

他府県に行くのも良いが、京都府内の伝統文化を改めて知ることも大切と管内外調査をさせていただきましたのも両副委員長からの御提案であり、心から感謝申し上げます。

今日、大きく社会が変動する中で文化力と価値創造という幅広い分野においては、様々な課題が山積しており、理事者の皆様におかれましては、本委員会での活動において参考人の御助言をはじめ、各委員から出された御意見、御要望につきまして、今後の府政運営に積極的に御検討いただきますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、委員並びに理事者の皆様方におかれましては御健康に留意され、今後ますます御活躍されることを祈念いたしております。また、事務局の皆さんにも本当にお世話になりましたありがとうございます。簡単ではございますが私の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

文化力と価値創造に関する特別委員会 管内外調査実施状況

1 管内調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 9. 8	▷ 文化庁京都移転記念事業 「きょう ハレの日、」 記念式典
	5. 11. 11	▷ 京都伝統文化の夢舞台
	5. 12. 17	▷ 令和5年度全国高校生伝統文化フェスティバル
	6. 2. 6	▷ 第42回京都府文化賞交流会
	6. 2. 25	▷ 京都・和食の祭典 2024～京の食文化発信～シンポジウム
6	6. 6. 4	▷ 企画展「五彩を感じて 印象の墨の世界」 及び同時開催「第5回京都工芸美術作家展」内覧会
	6. 7. 5	▷ 特別展 日本の巨大ロボット群像 —鉄人28号、ガンダム、ロボットアニメの浪漫—特別内覧会
	6. 9. 12	▷ 生誕140年記念 石崎光瑤 特別内覧会
	6. 10. 17	▷ 京都府立植物園「LIGHT CYCLES KYOTO」内覧会
	6. 10. 31	▷ 「Art Collaboration Kyoto」オープニングセレモニー
	6. 11. 22	▷ 日中平和友好条約45周年記念世界遺産大シルクロード展開会式
	6. 12. 17	▷ 令和6年度全国高校生伝統文化フェスティバル
	7. 1. 30	▷ 第43回京都府文化賞交流会
	7. 2. 8	▷ 京のかがやき2025～民俗芸能を未来へつなぐ～
	7. 2. 14	▷ 「カナレットとヴェネツィアの輝き」内覧会
	7. 4. 14	▷ 特別企画展「伊東深水 時代の美、つややかに」開会式
	7. 4. 25	▷ 特別展「和食～日本の自然、人々の知恵～」特別内覧会

2 管内外調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 8.22 ～23	<ul style="list-style-type: none"> ▷ 福岡市役所〔於：Artist Café Fukuoka〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「Fukuoka Art Next」の取組について ・ 施設視察 ▷ 大野城市役所〔於：大野城心のふるさと館〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大野城心のふるさと館での先端テクノロジーを使った取組について ・ 施設視察 ▷ 古民家宿泊施設「HOTEL CULTIA 太宰府」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史的資源を活用したまちづくりについて ・ 施設視察 ▷ 山口大学教育学部 <ul style="list-style-type: none"> ・ 山口大学教育学部・附属小中学校歴食給食プロジェクトについて
6	6. 8.27 ～28 (中止)	<ul style="list-style-type: none"> ▷ 宇治市議会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇治学による小中学生への文化学習・伝承の取組について ・ 現地視察（京都宇治茶房 山本甚次郎） ▷ 敦賀市議会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 和食文化を支える「敦賀昆布ストーリー」創出・発信事業について ▷ 金沢市議会〔於：金沢 21 世紀美術館〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 金沢 21 世紀美術館ミュージアム・クルーズ事業について ・ 施設視察 ▷ 石川県議会〔於：いしかわ生活工芸ミュージアム〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 石川県の伝統文化の普及・啓発、伝承の取組について ・ 施設視察 <p>※台風 10 号の接近により中止</p>
	7. 1.28 ～29	<ul style="list-style-type: none"> ▷ 宇治市議会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇治学による小中学生への文化学習・伝承の取組について ・ 現地視察（京都宇治茶房 山本甚次郎） ▷ 敦賀市議会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 和食文化を支える「敦賀昆布ストーリー」創出・発信事業について ▷ 金沢市議会〔於：金沢 21 世紀美術館〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 金沢 21 世紀美術館ミュージアム・クルーズ事業について ・ 施設視察 ▷ 石川県議会〔於：いしかわ生活工芸ミュージアム〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 石川県の伝統文化の普及・啓発、伝承の取組について ・ 施設視察